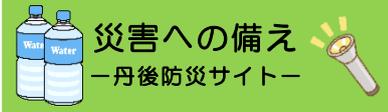


～毎月1日は、防災について考える日～

災害対策NEWS

No.5



災害への備え
—丹後防災サイト—

京都府丹後保健所
HPバナー

編集/発行 (京都府丹後保健所)
災害対策ワーキングチーム

<事務局>

京都府丹後保健所(丹後広域振興局健康福祉部)
〒627-8570 京都府京丹後市峰山町丹波855
TEL.0772-62-4312 FAX.0772-62-4368

地震による津波被害

東日本大震災の津波被害

2011年(H23)3月11日14時46分、東北地方の太平洋沖を震源にして、M9.0の超巨大地震が発生しました。この地震は「東北地方太平洋沖地震」、もたらされた災害は「東日本大震災」と命名されました。

この地震による津波は、高さが9m以上にもなり、川を遡上するなど広範囲に及ぶ地域を襲いました。人的被害として、死者は15,854人、行方不明者は3,155人、負傷者は26,992人に上り(H24.3.11時点)、死者の90%以上の死因は溺死と判明しています。

また、津波は、家屋等を破壊し、電気、水、ガスなどのライフラインを寸断したため、多くの人々が自宅生活困難となり、避難所等での生活を余儀なくされました。



各地の最大の津波の高さ及び到達時間

<出典>平成23年東日本大震災と警察(回顧と展望) 警察庁 平成24年3月

日本海中南部の海域活断層

2025年(R7)6月27日、政府の地震調査委員会は、日本海中南部の区域(兵庫県沖～富山県沖)の海域活断層について、地震の発生確率を発表しました。

今後30年以内にM7.0以上の地震が発生する確率は、西部区域4～6%程度、東部区域12～14%程度、全域で16～18%程度でした。

*西部区域(近畿北方沖・北陸西部沖)

*東部区域(金沢平野西方沖～能登半島周辺・富山トラフ西側)

西部区域では、1927年(S2)に2925人が死亡した北丹後地震(M7.3、最大震度6)が発生しています。

陸に近い海域活断層の地震では、大きな揺れに加え、地震発生からわずかな時間で津波が到達する恐れがあります。

なお、海域活断層は、海底にあるため調査が難しく、深部構造を確認できない断層が数多く残されています。



京都府では、東日本大震災による甚大な津波被害を受け、2016年(H28)3月28日「津波浸水想定について(解説)」を公表しました。津波浸水想定は、地域で避難を中心とした津波防災対策を進めるための基礎になるものです。



各市町沿岸の最高津波水位及び最高津波到達時間

- 最高津波水位 (海岸線から約30m地点における津波の海面を東京湾平均海面から測った高さで最高のも)
- 最高津波到達時間(海岸線から約30m地点における地震直後から最高津波水位となるまでの時間)

◆津波避難で助かった事例◆

—石川県珠洲市三崎町寺家下出地区—

2024年(R6)の能登半島地震の際、地震から25分ほどで津波が襲来しました。住民は声をかけあって、避難路である坂道を登って、高台の集会所に避難し、全員の命が助かりました。同地区では、東日本大震災の災害教訓を受けて、10年以上毎年1～2回、避難計画等に基づいて、地震や津波を想定した避難訓練を継続していました。

災害関連事業(令和7年10月~令和8年2月)抜粋

開催日	事業名	内容	参加者数	対象者
R7.11.21	保健医療福祉調整地域本部訓練	アクションカードを使用した行動訓練	22名	丹後保健所職員
R7.12.8	保健師連絡会	健康問題想定カード(避難所編)を使用した保健活動訓練	28名	管内保健師
R7.12.9	難病従事者研修会	難病患者の災害対策支援(防災士による講演等)	35名	管内保健医療福祉関係者
R8.1.9	リハビリ事例検討会	災害時支援における実践報告(保健師、DWAT)、グループワーク	20名	管内リハビリテーション専門職等
R8.1.28	福祉避難サポートリーダー養成研修	実災害で必要な活動内容の紹介	29名	管内福祉関係者
R8.2.25	クロナロ等訓練	クロナロジー訓練、D24H等災害関連システム運用訓練	22名	丹後保健所職員

「丹後圏域障害者自立支援協議会 医療的ケア部会 避難訓練」

地震などの大規模災害が各地で起こっている今、丹後地域で大規模災害が起こり、自宅外への避難が必要となった場合、「無事に避難できるのか?」「避難所で避難生活を送れるのか?」このような不安や疑問は誰しもあると思います。



今回、医療的ケアが必要な児童とそのご家族の避難訓練を、自治会の方々を含め関係者の理解や協力を得るきっかけづくりとして、同協議会の医療的ケア部会で計画し、令和7年10月22日(水)に実施しました。

避難訓練では、単に避難できるかの検証に留まらず、避難の際の注意点や工夫点への気付きに繋がると同時に、自治会の方々との繋がりがこれまで以上に強くなり、実際に被災した際の協力を得られる関係づくりにもなりました。



D24H(ディー・トゥエンティーフォー・エイチ)について

- D24Hは、災害時の保健・医療・福祉分野の情報を一元的に集約し、関係機関の迅速な意思決定を支援する国の情報システムです。医療機関や福祉施設の被害状況、避難所の状況、道路の通行状況等、厚生労働省の個別システムや新総合防災情報システム(SOBO-WEB)と連携してリアルタイムに把握できます。
- 集約した情報は地図上に可視化され、支援が必要な施設の把握や、支援チームの派遣先・巡回ルートを検討に活用できます。避難所情報は現場からスマートフォンで直接入力でき、報告の負担も軽減されます。
- 医療・介護現場と行政をつなぎ、災害時の支援をより早く、確実に届けるための重要な仕組みです。

【参考】D24Hについて https://www.d24h.mhlw.go.jp/d24h_intro/

【災害用語紹介】

JRATとは...

日本災害リハビリテーション支援協会(チーム)で、被災者・要配慮者の生活不活性発病や災害関連死等の予防をし、被災者が早期に自立生活を再建、復興できるための支援を目的とされています。

主な活動内容として、避難所の住環境評価や応急的環境整備を行います。

出典：一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会



備えて安心 防災日記

丹後圏域地域リハビリテーション支援センターコーディネーターの坂根です。

近年、全国各地で大規模災害が相次ぐ中、丹後圏域においても「災害はいつ起きてもおかしくない」と捉え、平常の備えが重要と考えています。

災害時には、地域の力だけで対応することが難しく、JMATやJRATなど外部支援を円滑に受け入れる受援体制づくりが欠かせません。そのため、地域の実情を理解し、支援をつなぐ役割を担う存在が必要になります。

支援センターでは、こうした視点から、「災害時のリハビリテーション支援」をテーマにした事例

検討会を2024年度から開催しており、能登半島地震などの支援報告から、避難所支援やリハビリ専門職の役割について学びを深めてきました。

丹後圏域は高齢化率が高く、集落の点在や冬季の雪など、災害時に特有の課題があります。こうした地域特性を踏まえ、「災害時の支援は日頃の支援の延長にある」という視点を共有し、多職種の顔の見える関係づくりに取り組んでいます。

平時からのつながりと備えの積み重ねが、いざという時の安心につながるものと考えています。

